

プロジェクト 3 生活習慣病治療を指向した新規標的分子 および医薬品の探索と作用機序研究

研究プロジェクト参加研究室及び担当責任者

平成 22 年 4 月 1 日現在

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
別府 正敏	薬学研究科・教授	生活習慣病治療の新規細胞表面標的候補分子スクレオリンの機能解明と機能制御	研究統括動脈硬化、がん治療等の分子標的研究
田野中 浩一	薬学研究科・教授	心不全病態に関わるミトコンドリアタンパク質に関する研究	心疾患治療等の分子標的研究
大野 尚仁	薬学研究科・教授	動脈硬化の危険因子としての微生物成分と自然免疫系認識分子との関連性の検討	動脈硬化治療等の分子標的研究
伊東 晃	薬学研究科・教授	マトリックスメタロプロテアーゼ誘導因子 EMMPRIN の新規機能検索とそれを分子標的とする生活習慣病治療薬の開発	がん治療等の分子標的研究
平塚 明	薬学研究科・教授	がん細胞の抗がん剤耐性化因子としての薬物代謝酵素の役割	がん治療等の分子標的研究
新槇 幸彦	薬学研究科・教授	生活習慣病治療を指向した標的細胞選択的遺伝子デリバリーシステムに関する研究	がん、動脈硬化、心疾患治療等の薬物送達システムの研究
別府 正敏	薬学研究科・教授	生活習慣病治療の新規細胞表面標的候補分子スクレオリンの機能解明と機能制御	研究統括動脈硬化、がん治療等の分子標的研究
田野中 浩一	薬学研究科・教授	心不全病態に関わるミトコンドリアタンパク質に関する研究	心疾患治療等の分子標的研究
大野 尚仁	薬学研究科・教授	動脈硬化の危険因子としての微生物成分と自然免疫系認識分子との関連性の検討	動脈硬化治療等の分子標的研究

研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

分子生物学をはじめとする生命科学の精密化と医学薬学諸分野の横断的学際的な研究の進展により、各種の生活習慣病の病態や発症機構が分子レベルで徐々に明らかにされつつある。このような状況下、生活習慣病の発症や進展あるいはその防御や治療のキーとなるタンパク質等の生体内分子を特定し、その機能および機能制御法を明らかにし、これを標

的分子として薬物を開発することにより効果的な医薬品開発が期待できる。本研究プロジェクトは、主として循環器疾患およびがんの治療薬開発に向けて、病態あるいは治療のキーとなる標的分子を特定し、その機能および機能制御法を明らかにして、治療薬開発に繋げていくことを目的とする。

本プロジェクトは衛生化学、薬理学、免疫学、生化学、薬物代謝学、薬剤学など、専門分野を異にする 6 つの研究班で構成されており、各班はそれぞれの専門的視点から、循環器疾患、がんなどの生活習慣病の発症や進展、予防のキーとなる生体内分子、標的候補分子の探索、特定、機能解析、機能制御法の検討を行うサブプロジェクトをそれぞれ立ち上げ、推進するとともに、各研究の進展ステージに応じて必要となる専門分野の班が随時加わり、技術的、物的な支援および助言等を行い研究の更なる展開をはかる。このような連携体制の研究組織を組むことにより、各班の専門性と能力を最大限に生かし、かつその研究テーマを他分野にまで拡大・発展させることが期待できる。